

110周年の伝統と革新を祝して

兵庫県立兵庫高等学校長 富田 哲浩

平成30年は本校にとり大きな節目となる創立110周年です。本校創立日とされる5月5日に創立110周年記念式典を開催いたしました。式典当日の神戸の街は、



真青の空がひろがり、さわやかな風が初夏の薫りを運ぶ素晴らしい天気恵まれました。

100周年式典から早10年の月日が経過し、再び盛大に式典を開催できましたことは、この上ない喜びでありました。

式典には、ご来賓としまして、兵庫県知事様、武陽会元理事長様、歴代校長の皆様、そして沖縄から那覇高校城岳同窓会様にご出席いただき、華を添えていただきました。また、多くの同窓の皆様にもご参加いただきました。併せて、心より感謝申し上げます。

以下、この式典で私から申し上げましたことばを紹介して、平成30年度当初の御挨拶とさせていただきます。

本校の歴史は、明治41年創立の県立第二神戸中学校に源を発します。「神戸二中」は、日露戦争後、義務教育就学が8割を超え、中学校への進学希望者も大きく増加するなか、「神戸一中」からの12年のちの創立となりました。教育の根本に「一中」と同じ四綱領「質素剛健、自重自治」を掲げ、自由・創造・個性・自発を重視する人間教育に傾注するとともに、比類無きたくましさを育てる、独自の校風がつくられました。

一方、戦時中の昭和17年に県立第四神戸高等女学校は創立いたしました。歌敷の地に新しき世を築かんとの想いを掲げ開校した「県四」は、清らかで健やかな心身を育む女子教育が進められました。

そして昭和23年、「二中」と「県四」は、戦後の教育改革により統合され、県立兵庫高等学校が誕生いたしました。「二中」「県四」の両校は、戦後の不自由な混乱期にあるも、互いを尊重し、自然に溶け合うように一つの学校となりました。爾来今日まで、政治、経済、文化、芸術、スポーツのあらゆる分野に、幾多の優秀な人材を輩出して参りました。これも、文武両道を継承し、日々の活動のなかで、特に生徒の自主性を重んじる教育を進めてきたからであると考えます。高校時代という命の春の時を迎えた生徒に、伸び伸びと自然体の成長をうながし、その才能を開花させると同時に、「自由」に伴う「責任」を会得させる教育が、時代を超えて守られ続けたのです。

改めて、生徒諸君には、本校に身をおくことのできる幸せを感じ、これからの高校生活において、個性の伸長を図り、本校の歴史に新たな轍を残す努力をしてもらいたいと思います。

21世紀、高度情報化とグローバル化が大きく進展し、この変化の早い時代に対応できる人材が求められております。10年前、100周年のコンセプトを「新たな黎明」とし、この後、本校では、21世紀を切り拓く人材育成のための学校教育改革が進められました。

改革は、四綱領の精神と、文武両道の学びを継承しつつ、生徒の意欲と行動力を生かして、将来、生徒が真にやりたいことを見つける「キャリア教育」と、社会科学や自然科学における、まだ正解のない問題に挑戦する「課題研究」に取り組むこととしました。キャリア教育は、京阪神の大学との連携と、産業や経済の世界で活躍する卒業生による直接のガイダンスに繋がりました。また、課題研究の取組は、文科省のSGH指定へと進化し、長田区との連携協定、海外の大学や国際展開する企業を直接訪問する調査研究に発展しています。

「未来と創造」をキーワードにスタートしたこの革新プログラムは、生徒の視野を広げ、論理的な意見交換を楽しむ生徒の育成に繋がっています。また、併せて、価値観や考え方の異なる様々な人たちとの出会いを通して、優しさといたわりの心をもつ頼もしい人間に成長しており、着実にその成果をあげています。今後も、これらの取組に情熱を注ぎ、本校の発展に繋いで参りたいと考えております。

本校の110周年のテーマは「縁を繋ぐ、未来へ繋ぐ」としています。改めて本日を契機に、生徒同士、教員と生徒、親と子の間の繋がりをもとに、生徒たちの、同窓の先輩との繋がりや、地域や連携機関との繋がりが一層強まり、未来に向けて、優しくたくましい心とその生命が繋がりゆくことに夢を馳せたいと思います。そして、武陽が丘で育った兵庫高校生が、21世紀の希望として輝き、誇りある同窓会の皆様のお仲間にしていただけますよう、努力いたしますこととお誓いします。